

科目名称：	子どもの食と栄養Ⅱ	
担当者名：	井上 好美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
前期での栄養に関する基本的知識を基に、乳幼児期に必要な栄養素と適量について食品に結びつけて理解する。特に小児の栄養上の問題点や調理形態など実践面について学び、食材の選択能力を習得する。		
授業の達成目標・到達目標		
自分自身が食事を柱とする生活リズムを保ち、正しい食生活を身につける。保育に携わる者に喜びや楽しみを持てるよう、地域社会との関わりの中で食育の実践が出来る。家庭と保育施設を結ぶ専門的知識を身につけ、食とおした保護者への支援が出来る。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		70	30		100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 管理栄養士	《経験年数1》 29年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 乳児期の離乳の意義と必要性	前期で学んだ重点項目について、乳児期の離乳の必要性、基本的な考え方を再度調べる 各回の授業テーマに関連する情報収集をしておく	20分
第2回 離乳食の進め方の原則、与え方の目安	離乳食の調理形態基本4段階を調べておく	20分
第3回 離乳食と成長の原則 離乳食の事例 グループワーク	食事摂取基準と食品構成の演習の準備をしておく	20分
第4回 離乳食のDVD 離乳食の与え方と食育の基本, ディスカッション	食育のねらい及び内容 実際の乳幼児の管理と実際を観察しておく	20分
第5回 災害支援に役立つ離乳食の調理実習	「食育の5項目」を厚生労働省の資料より予習しておく「食生活指針」も参照	20分
第6回 幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の発達の特徴 身体の発達の特徴 食行動の特徴	幼児期で家庭の食事が心身に与える役割について気づくことを箇条書きにしておく	20分
第7回 幼児の食事摂取基準と食品構成と食品の選び方	供食上の留意点、間食にどんなものが適しているのか調べておく	20分
第8回 幼児期の間食の必要性和意義、食生活の問題点	幼児の食事で困っていることを調べておく	20分
第9回 学童期の心身の発達と食生活 身体的特徴と精神的特徴 食生活の特徴と問題点 最近の情報	自身が小学生の時の身長、体重について覚えていることを記録しておく	20分
第10回 食事摂取基準から学校給食と保育給食の目標 給食の課題と利点 保護者が期待する給食	自身の給食で好き嫌いだったメニューを記入しておく	20分
第11回 食物アレルギーのある子どもへの対応 体調不良の子への対応 Q&Aグループワーク	個々の「生活管理指導表」厚生労働省新資料に基づいた個別対応について調べておく	20分
第12回 幼児や障害のある子どもへの食の対応 保護者への食育パンフレット作成	特に食べる機能に障害のある子どもへの対応例 保護者への食育パンフレットを作製しておく	20分
第13回 食育の基本と内容 乳児幼児に対して、食育のための環境食を通した保護者への支援 ディスカッション	幼児食の特徴と留意点を調べておく 衛生管理を踏まえて	20分
第14回 食生活、昨今の栄養問題と課題 自身の健康管理	レポート・「食育だより」を作成しておく Q&Aによる事例発表	20分
第15回 後期のまとめ	総復習しておく。	20分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各回の復習や予習を小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト70% レポート30% 授業への参加度も考慮する。

課題に対するフィードバック

授業内プリントは回収後に返却しない。
課題に対して、必要に応じてフィードバックする。

教科書・参考書

「最新 子どもの食と栄養」食生活の基礎を築くために
「五訂増補 食品成分表」 「日本人の食事摂取基準」(2015年版) 他